

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		イヤートレーニング	
授業名	ET 1	担当教員名	小林 延江
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	<p>《リズム》4分の3拍子・4分の4拍子で、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符の混ざったリズムを聴き取れるように。《メロディー》C～Gまで(跳躍進行あり)を正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。 《音程》1～8度までの音程を知る。《コード》メジャーコードとマイナーコードを聴き分ける。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。</p>		
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容	
1	講義	ファンデーション科目・ETの説明/音の歴史について、音楽について、モールス信号、効果音、周波数(教科書第1章～2章の内容)	
2	講義	4分音符4分休符導入 / リズム打ちを使つての書き取り/線紙を使って音の高低判定(C～E・2度進行)	
3	講義	C～A まで(臨時記号後付け)/マイナースケールのメロディー視唱/音程ドリル/	
4	講義	8分音符導入 / 5線を使ってC～E までの書き取り / 全音・半音と度数のみ	
5	講義	休符の多い書き取り問題 / 1・2・3・8度のみ	
6	講義	16分音符の導入 / 復習・暗記問題/1・2・3・8度のみ変化記号(#・b)が付いた場合	
7	講義	復習・確認週	
8	講義	C～E で跳躍進行/1～5と8度(4度、5度は#, b なし) トライトーン	
9	講義	8分休符+8分音符の導入 / C～Fまで(順次進行)/1～5と8度(4度、5度#, b あり)トライトーン	
10	講義	8分音符+16分音符リズムの導入 / C～Gまで(順次進行)/1～6と8度	
11	講義	C～Gまで(跳躍進行)/1～8度	
12	講義	1～8度 音程まとめ/Major, Minorの聞き分け/総復習	
13	講義	テスト対策週と振り返り	
14	講義	テストと振り返り	
15	講義	テスト結果に基づいた振り返り	
準備学習 時間外学習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	筆記試験100%	
教材	教科書	イヤートレーニング	
	参考書		
学生への メッセージ	週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。継続して授業に出席することを定着させ、正確な音感・リズム感を身につけていきましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		イヤートレーニング	
授業名	ET2	担当教員名	小林 延江
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	<p>《リズム》4分の3拍子・4分の4拍子で、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符、付点8分音符の混ざったリズムを聴き取れるように。《メロディー》C～Cまで(1オクターヴ/跳躍進行あり)《2声メロディー》Key:Cのメロディーを正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。《音程》1～8度までの音程の理解を深める。《コード》メジャーコードとマイナーコードの違いを瞬時に聴き分ける。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を身につけていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力も身につけていきます。</p>		
<p>【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。</p>			
回数	授業形態	内容	
1	講義	復習(C～Gまで) マイナススケールのメロディー視唱/復習(1～8度) 音程ドリル/Major, Minorの聞き分け	
2	講義	3連符の導入 / 復習(C～Gまで) Cマイナススケールのメロディー視唱/音程ドリル/C, G, Fの聞き分け	
3	講義	C～A まで(臨時記号後付け)/マイナススケールのメロディー視唱/音程ドリル/	
4	講義	C～A まで(臨時記号後付け) /復習 音程ドリル	
5	講義	付点8分音符・16分音符の導入/(タイの導入・後付け)/C～B まで(臨時記号後付け)/復習 音程ドリル	
6	講義	テスト対策週(まとめ)と振り返り	
7	講義	テストと振り返り	
8	講義	テスト返却/リズム打ち6/8拍子導入/ベース(F-clef)の書き取り(C～G)/Major, Minorの聞き分け	
9	講義	リズム打ち6/8拍子/ベース(F-clef)の書き取り(C～G)/復習 音程ドリル	
10	講義	8分音符・16分音符の導入/リズム打ち6/8拍子 /Major, Minorの聞き分け	
11	講義	リズム打ち6/8拍子 /2声メロディー/復習 音程ドリル	
12	講義	総復習 (リズム打ち6/8拍子)/1オクターブ・2声メロディー	
13	講義	テスト対策週と振り返り	
14	講義	テストと振り返り	
15	講義	テスト結果に基づいた振り返り	
準備学習 時間外学習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	筆記試験100%	
教材	教科書	イヤートレーニング	
	参考書		
学生への メッセージ	週1回の授業を大切に！こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。継続して授業に出席することを定着させ、正確な音感・リズム感を身につけていきましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ミュージックセオリー	
授業名	LM1	担当教員名	小林 延江
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	楽譜に書かれた音やリズム・記号の意味について理解し、楽譜の基礎を学んでいくことで正確に楽譜を読み取る力を身につけていくことを目標とする。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているのかも紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し問題を解きながら読譜力をつけていきます。		
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容	
1	講義	ファンデーションカリキュラムの説明・LMの説明・楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る	
2	講義	鍵盤と音名の一致・楽器ごとの音域を知る	
3	講義	音符・休符の表し方、連符	
4	講義	拍子記号・小節線について、拍子(単純拍子は詳しく、複合・混合拍子は紹介のみ)、タイ・シンコペーション	
5	講義	反復記号を学び、音源を使用して楽譜を追えるようにする	
6	講義	楽譜と音源を使用し、前半の総復習	
7	講義	前半の確認テストと振り返り	
8	講義	メジャースケールの仕組み・#系のメジャースケールのみ	
9	講義	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする・b系のメジャースケール	
10	講義	調号と臨時記号の違い・臨時記号の効力・正しい楽譜の書き方	
11	講義	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ	
12	講義	楽譜と音源を使用し、後半の総復習	
13	講義	期末予備テストと振り返り	
14	講義	期末テストと振り返り	
15	講義	テスト結果に基づいた振り返り	
準備学習 時間外学習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	筆記試験100%	
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック	
	参考書		
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ミュージックセオリー	
授業名	L M2	担当教員名	小林 延江
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	スケールの仕組みや曲の雰囲気の特徴付けるKeyについて、移調の仕方、楽譜に書かれた記号の演奏方法について、コードの概念と構造について理解することにより、楽譜をもう少し深いところまで読み取る力を身につけていくことを目標とする。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているか、どう使っていくか等紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し練習していきながら習得していく。		
【実務経験】2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容	
1	講義	マイナースケールの仕組み・5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明	
2	講義	ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明	
3	講義	近親調・それぞれの調の関係を楽譜を用いて知る	
4	講義	五線を用いて移調を出来るようになる	
5	講義	省略記号、奏法記号、装飾記号を知る	
6	講義	楽譜と音源を用い、前半の総復習	
7	講義	前半の確認テストと振り返り	
8	講義	コードの概念とトライアドの構造について知る	
9	講義	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させる	
10	講義	トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る・dimコードの構造と響き	
11	講義	add9、sus4、6thコードについて知る	
12	講義	楽譜と音源を用い、後半の総復習	
13	講義	期末予備テストと振り返り	
14	講義	期末テストと振り返り	
15	講義	テスト結果に基づいた振り返り	
準備学習 時間外学習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	筆記試験100%	
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック	
	参考書		
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション		
授業名	HIPHOP I	担当教員名	konitan	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	各学生達の目標、これからどういうダンサーになっていくかに沿って必要なスキル、最低限の基礎を身につけさせる			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 基礎を中心に進めていき、その日の基礎の動きを使用した振付をしていきます。			
【実務経験】ユニバーサル・スタジオジャパン・SPECTA光のライトショー・TRUE SKOOL 優勝				
回数	授業形態	内容		
1	演習	オリエンテーション		
2	演習	HIPHOP基礎・振付1		
3	演習	HIPHOP基礎・振付1のつづき		
4	演習	HIPHOP基礎・振付1のつづき		
5	演習	HIPHOP基礎・振付2		
6	演習	HIPHOP基礎・振付2のつづき		
7	演習	HIPHOP基礎・振付2のつづき		
8	演習	HIPHOP基礎・振付3		
9	演習	HIPHOP基礎・振付3のつづき		
10	演習	HIPHOP基礎・振付3のつづき		
11	演習	試験に向けての復習		
12	演習	試験内容の練習		
13	演習	試験と振り返り		
14	演習	(ワークショップ)		
15	演習	(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	振りの確認、復習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	心身ともに強くなるために自分と向き合しましょう			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション		
授業名	HIPHOP II	担当教員名	konitan	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	各学生達の目標、これからどういうダンサーになっていくかに沿って必要なスキル、最低限の基礎を身につけさせる			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する HIPHOPの軸となるリズムを中心とした基礎、また技術のみならず、メンタル面におけるトレーニングで心技ともに磨く			
【実務経験】ユニバーサル・スタジオジャパン・SPECTA光のライトショー・TRUE SKOOL 優勝				
回数	授業形態	内容		
1	演習	オリエンテーション		
2	演習	HIPHOP基礎・振付1		
3	演習	HIPHOP基礎・振付1のつづき		
4	演習	HIPHOP基礎・振付1のつづき		
5	演習	HIPHOP基礎・振付2		
6	演習	HIPHOP基礎・振付2のつづき		
7	演習	HIPHOP基礎・振付2のつづき		
8	演習	HIPHOP基礎・振付3		
9	演習	HIPHOP基礎・振付3のつづき		
10	演習	HIPHOP基礎・振付3のつづき		
11	演習	試験に向けての復習		
12	演習	試験内容の練習		
13	演習	試験と振り返り		
14	演習	(ワークショップ)		
15	演習	(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	振りの確認、復習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	心身ともに強くなるために自分と向き合しましょう			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークコミュニケーション	
科目名	照明概論		担当教員名 徳永 好郎
時間数	120	必修・選択	配当年次 1年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	舞台照明に必要な電気理論及び、舞台照明設備を理解して、照明作業が出来る様になる。		
授業内容	現場で即戦力となる為の、舞台照明基礎知識・機材知識を、講義を通して指導する。		
【実務経験】(株)ディー・スタッフを設立して、以降各地の劇場、ホールに於いて、舞台・照明・音響の業務を行う。天王寺博覧会(テクニカルディレクター)・大阪花博(ハワイ州パビリオンショーライティング)・三重まつり博、(テクニカルプラン/ディレクター)・大阪ミクル劇団(舞台監督)・日中合作人形劇団・上海京劇(舞台監督)現在、フリーランサー(吉本ブロードエンターテインメントとの契約)・柏原リビエールホールに勤務			
回数	授業形態	内容	
1	演習	機材知識(照明機器の種類・構造・取扱いに、ついて学ぶ)	
2	演習	電気知識(オームの法則を基に電圧・電流・抵抗の関係を計算式で理解する)	
3	演習	機材知識(電気容量に対しての、電流・抵抗等の、関係を計算式で理解する。)	
4	演習	電気知識(LEDの構造及び、通常の照明機具とLED機具との違いを、学ぶ)	
5	演習	電気知識(灯具等での、電気容量について、電流・抵抗等を、早見表で知る)	
6	演習	照明設備(照明用フライダクトの、構造・用途等、複数の負荷回路を理解する)	
7	演習	電気知識(1負荷回路に於ける、許容電気容量について計算式等で理解する。)	
8	演習	照明設備(仮の照明プラン図に基づいて、フライダクトの回路取りを、机上で行う)	
9	演習	電気知識(照明での電線【ケーブル】の種類と、許容電流値について、理解する)	
10	演習	照明設備(舞台照明での【コネクター】の種類・許容電流について理解する)	
11	演習	電気知識(電源【単相交流・三相交流】・制御電源【直流】の違いを理解する)	
12	演習	照明設備(舞台上【客席側】照明設備について図面等で、説明して学ぶ)	
13	演習	電気知識(単相2線式・単相3線式・三相3線式・三相4線式電源について、学ぶ)	
14	演習	電気知識(電源【単相交流・三相交流】・制御電源【直流】の違いを理解する)	
15	演習	電気知識(単相2線式・単相3線式・三相3線式・三相4線式電源について、学ぶ)	
準備学習 時間外学習	授業ノートの見直しをしましょう		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験(50%) 課題(50%)	
教材	教科書	新編・舞台テレビジョン照明の知識編及び技能編	
	指定参考書	舞台・テレビジョン照明(基礎編)	
学生へのメッセージ	舞台照明機器の構造・取扱い及び・電気の知識を理解して、簡単な照明作業が出来る様になりましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークコミュニケーション	
科目名	PRO TOOLS I	担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	DAWを使用した「音声データの読み込み、編集、書き出し」の流れを知る		
授業の内容	前期では集中的に、今後、参加を予定しているイベント制作過程において、その際に必要なスキルや情報を学ぶ講義などを行います。講義に対しての課題とし資料提出やその他必要になれば様々な課題の追加なども行います		
【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務。2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける			
日程	授業形態	内容	
1	演習	501教室のシステムについて(使用機材の紹介)、音声信号の流れ	
2	演習	ファイルについて(新規作成、保存、閉じる、開く)、音声データの読み込み方。	
3	演習	ファイルの種類。トランスポート。Pro Toolsファイル構成。	
4	演習	編集について(編集モード、編集ツール、編集実行)	
5	演習	編集について(編集モード、編集ツール、編集実行)	
6	演習	編集について・応用	
7	演習	編集について・応用	
8	演習	編集について・応用	
9	演習	編集について・応用	
10	演習	ミックスについて	
11	演習	ミックスについて	
12	演習	ミックスについて	
13	演習	ミックスについて	
14	演習	データの書き出し(統合、バウンス、ファイルとしてエクスポート)	
15	演習	総復習	
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	課題100%	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	基本操作を覚えて、実際に機材に触れる時に役立てましょう。		



## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークコミュニケーション	
科目名	PAベーシック	担当教員名	伊東 次郎
時間数	180	配当年次	1 年次
曜日・時限	必修	教室	
授業の到達目標	PAの基本的な知識・技術・マインドを理解し身に付ける。		
授業の内容	前期では集中的に、今後、参加を予定しているイベント制作過程において、その際に必要なスキルや情報を学ぶ講義などを行います。講義に対しての課題とし資料提出やその他必要になれば様々な課題の追加なども行います		
	【実務経験】コンサートやイベント・放送系の音響プランやオペレーションを手掛けている。		
日程	授業形態	内容	
1	演習	PAとは(PAの種類・役割・仕事内容等) ケーブルの巻き方等	
2	演習	PAの基本システムについて(コネクター等)	
3	演習	マイクロフォンについて(扱い方や音質等)	
4	演習	ミキシングコンソールについて I (信号の流れや操作)	
5	演習	ミキシングコンソールについて II (信号の流れや操作)	
6	演習	ミキシングコンソールについて III (信号の流れや操作)	
7	演習	アンプとスピーカーについて I (セッティングと接続方法)	
8	演習	アンプとスピーカーについて II (セッティングと接続方法)	
9	演習	イコライザーについて(性質と操作方法)	
10	演習	エフェクターについて I (リバーブ・ディレイ)	
11	演習	エフェクターについて II (コンプ・ゲート)	
12	演習	ワイヤレスマイクについて(扱い方と電波)	
13	演習	前期試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	授業で習った内容 特に新しい事は必ず復習して身に付けるようにして下さい。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験 100%	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	実習を通してPAスタッフとしての基本的な知識・技術・考え方を身に付ける授業です。決して簡単ではないかもしれませんが しっかり身に付けて下さい。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークコミュニケーション		
科目名	イベントデザイン1	担当教員名	榎原 義明・山之口 裕子・山田 睦美	
時間数	120	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標				
「コンサートやイベントを作る」という仕事を理解し、今後、参加していくイベントに向けて必要なスキルを習得することを目指します。イベントやライブ・コンサートが出来上がるまでの大きな流れと、難しさ、面白さを理解し、実際に「企画・制作・運営」ができるようになることを目指します。（資料作成・段取りの組み方などのスキル習得を目指します）				
授業の内容				
前期では集中的に、今後、参加を予定しているイベント制作過程において、その際に必要なスキルや情報を学ぶ講義などを行います。講義に対しての課題とし資料提出やその他必要になれば様々な課題の追加なども行います				
【実務経験】				
榎原： イベント関係全般（皇室行事・式典・音楽・販促・集客・管理等）の制作・進行・運営のあらゆるシーンに従事。				
山之口： プロダクションでのマネージメント、大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	イベントデザインの授業や取り組みに関して		
2	演習	イベントとは		
3	演習	ビジネスマナーを学ぶ		
4	演習	イベント制作の基礎知識①（イベントを作る工程や役割を理解する）		
5	演習	イベント制作の基礎知識②企画立案するための「アイデア&リサーチ」方法について		
6	演習	イベント制作の基礎知識③アイデアをまとめる		
7	演習	イベント制作の基礎知識④アイデアを書類へ「企画書の作り方」について		
8	演習	イベント制作の基礎知識⑤制作スケジュールの作成方法と必要性について		
9	演習	イベント制作の基礎知識⑥収支を含む必要経費などの算出、概算予算について		
10	演習	" ⑦企画内容をプレゼンテーションするための準備とプレゼン方法について		
11	演習	プレゼンテーション(1)		
12	演習	プレゼンテーション(2)		
13	演習	イベントデザイン前期まとめとプレゼンの総評などの調整日		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	講義に関する情報を自分なりにまとめ、前週の課題を次週へ向けて仕上げる。（資料作成など）			
成績評価	1. 実技試験 (%)	実技試験 50%（プレゼンテーションの準備や成果を考慮）		
	2. 筆記試験 (%)	筆記試験 50%（企画書の準備や仕上がりなどを考慮）		
教材	教科書	適宜、必要資料の配布		
	参考書			
学生への メッセージ	【企画】【制作】といわれるイベントを作る仕事をよく理解し、まずはその第一歩である企画に関する工程の基礎を学んでください。後期に予定されている実務に向けてまずは知識を身につけましょう。			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークコミュニケーション	
科目名	舞台機構1	担当教員名	坂本 充勇
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	舞台に必要な基礎知識並びに安全作業及び職業環境に対する意識向上を身に付ける		
授業の内容	前期では集中的に、今後、参加を予定しているイベント制作過程において、その際に必要なスキルや情報を学ぶ講義などを行います。講義に対しての課題とし資料提出やその他必要になれば様々な課題の追加なども行います		
【実務経験】株式会社スタッフユニオンにて勤務。舞台監督、美術に従事。 2018年より株式会社ザ・シンフォニーホール ステージマネージャーとして勤務。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	前期授業概要説明・到達目標と目的の説明など	
2	演習	舞台機構 現代の舞台の名称と役割	
3	演習	尺貫法とヤード・ポンド法 / 図面の読み方	
4	演習	舞台機構 古典(能)舞台の名称と役割 (歴史的背景を踏まえて 五行思想など)	
5	演習	舞台機構 古典(能)舞台の名称と役割 (歴史的背景を踏まえて 五行思想など)	
6	演習	舞台用語解説	
7	演習	舞台用語解説	
8	演習	舞台用語解説	
9	演習	舞台用語解説	
10	演習	舞台用語解説	
11	演習	舞台用語解説	
12	演習	安全衛生教育①(舞台に必要な基礎知識の確認)	
13	演習	安全衛生教育②(舞台に必要な基礎知識の確認)	
14	演習	安全衛生教育①(安全作業及び職業環境に対する意識の確認)	
15	演習	安全衛生教育②(安全作業及び職業環境に対する意識の確認)	
準備学習 時間外学習	たくさん作品を観ましょう。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	筆記試験50% 課題50%	
教材	教科書	自作編集の冊子	
	参考書	特に無し	
学生への メッセージ	舞台で使用される言葉・機構・物の歴史的背景を学び理解を深めましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークコミュニケーション		
科目名	舞台美術デザイン1	担当教員名	あまのしげ	
時間数	60	必須	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	舞台美術デザインの基礎的表現力を身につけることができる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 舞台美術デザインの基礎的演習を行う。デザイン表現に於いて、創造力、表現力と何事かへの関心度が求められる。 演習課題から基礎的表現力をつけ、さらには自主的に表現することの喜びを感じ取ってもらいたい。			
【実務経験】1982年の活動開始より、44回にわたり個展を開催。岸和田市文化振興審議会委員、岸和田市景観審議会委員、岸和田文化事業協会理事等を歴任。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業のあらましと、評価の方法		
2	演習	紙による正六面体の制作。紙について、用具の使用法		
3	演習	デッサン。鉛筆について。		
4	演習	デッサン。明暗法		
5	演習	三原色による色彩構成		
6	演習	三原色による色彩構成		
7	演習	段ボール・クラフト(モデルの動物をつくる)		
8	演習	段ボール・クラフト(モデルの動物をつくる)		
9	演習	段ボール・クラフト(モデルの動物をつくる)		
10	演習	段ボールクラフト(オリジナルの動物を制作する)		
11	演習	段ボールクラフト(オリジナルの動物を制作する)		
12	演習	段ボールクラフト(オリジナルの動物を制作する)		
13	演習	お菓子の箱の模写		
14	演習	お菓子の箱の模写		
15	演習	お菓子の箱の模写		
準備学習 時間外学習	道具の取り扱い、メンテナンスを丁寧にする			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	課題100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	もの、他者、自分へ興味を持つこと。			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	バレエ I	担当教員名	角野由佳
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	バレエの基本姿勢、立ち方、オンバランス、オフバランスの区別、回転もジャズのインパッセ、バレエのターンアウトパッセの区別などをつけさせる		
授業の内容	バレエの基本姿勢で、ダンスに必要な体幹、他のダンスにもどうかすかを理解させながら、バーレッスンからセンターレッスンへ進める。		
【実務経験】 OSMバレエ講師…1995年～2005年、DA/バレエ講師…2008年～2019年現在に至る 1999年尼崎市武庫之荘スミノバレエ開校			
回数	授業形態	内容	
1	演習	各自、自己紹介、レッスン前のストレッチ、バレエの姿勢を保つ為の筋トレの方法	
2	演習	ターンアウトの使い方、バーレッスン	
3	演習	ターンアウトの使い方復習、バーレッスン	
4	演習	ルルベ、ポイントの使い方、アームスの使い方、バーレッスン	
5	演習	前週の復習、バー→センターレッスン	
6	演習	バーレッスン、センターレッスン	
7	演習	バーレッスン、センターレッスン	
8	演習	質問、疑問受付、その後バーレッスン、センターレッスン	
9	演習	バーレッスン、センターレッスン	
10	演習	バーレッスン、センターレッスン	
11	演習	試験の振付	
12	演習	試験と振り返り	
13	演習	後期に向けての課題確認	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	ストレッチ、コアトレーニング		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験:100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	ほぼ初バレエの生徒が多いため、好きでも嫌いでも、バレエはダンスに必要なことを理解してもらい、将来に繋げる為、努力してほしいと思います。楽しく厳しくレッスン進めたいと思います。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	バレエⅡ	担当教員名	角野由佳
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	バレエの基本姿勢、立ち方、オンバランス、オフバランスの区別、回転もジャズのインパッセ、バレエのターンアウトパッセの区別などをつけさせる		
授業の内容	バレエの基本姿勢で、ダンスに必要な体幹、他のダンスにもどうかすかを理解させながら、バーレッスンからセンターレッスンへ進める。		
【実務経験】 OSMバレエ講師…1995年～2005年、DA/バレエ講師…2008年～2019年現在に至る 1999年尼崎市武庫之荘スミノバレエ開校			
回数	授業形態	内容	
1	演習	各自、自己紹介、レッスン前のストレッチ、バレエの姿勢を保つ為の筋トレの方法	
2	演習	ターンアウトの使い方、バーレッスン	
3	演習	ターンアウトの使い方復習、バーレッスン	
4	演習	ルルベ、ポイントの使い方、アームスの使い方、バレッスン	
5	演習	前週の復習、バー→センターレッスン	
6	演習	バーレッスン、センターレッスン	
7	演習	バーレッスン、センターレッスン	
8	演習	質問、疑問受付、その後バーレッスン、センターレッスン	
9	演習	バーレッスン、センターレッスン	
10	演習	バーレッスン、センターレッスン	
11	演習	試験の振付	
12	演習	試験と振り返り	
13	演習	課題設定と振付確認	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	ストレッチ、コアトレーニング		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験:100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	ほぼ初バレエの生徒が多いため、好きでも嫌いでも、バレエはダンスに必要なことを理解してもらい、将来に繋げる為、努力してほしいと思います。楽しく厳しくレッスン進めたいと思います。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	JAZZゼミ I	担当教員名	久次亜希子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	基礎の徹底、振付を覚えてから自分で考えて味わいを出す。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ストレッチと筋トレ。ウォームアップ。バーレッスン。クロスフロア。コンビネーション。		
【実務経験】OSM、DAIにて20年非常勤講師として勤務。2018年よりDA東京でも教え始める。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	アップの説明。一通りのクロスフロア。	
2	演習	立ち方について。ピルエットのプレパレーション。	
3	演習	ロールアップダウン、フラットバックについて。	
4	演習	ボールを使ってパラレルで立つ。	
5	演習	ブリエについて。	
6	演習	タンデュについて。	
7	演習	体重移動①	
8	演習	体重移動②	
9	演習	クロスフロア強化。回転もの。	
10	演習	クロスフロア強化。ロンデジャンプ。	
11	演習	クロスフロア強化。シェネジュッテ	
12	演習	試験と振り返り	
13	演習	前期振り返り	
14	演習	(ワークショップ)	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	前の週にやった振りの練習等。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	自分のクセというのは立ち姿勢でさえもそれぞれあるものですが、これを直していかないとダンサーとして困ることがたくさんあります。少しずつでも直していきましょう。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	JAZZゼミ II	担当教員名	久次亜希子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	基礎の徹底、振付を覚えてから自分で考えて味わいを出す。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ストレッチと筋トレ。ウォームアップ。バーレッスン。クロスフロア。コンビネーション。		
【実務経験】OSM、DAIにて20年非常勤講師として勤務。2018年よりDA東京でも教え始める。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	アップの説明。一通りのクロスフロア。	
2	演習	立ち方について。ピルエットのプレパレーション。	
3	演習	ロールアップダウン、フラットバックについて。	
4	演習	ボールを使ってパラレルで立つ。	
5	演習	ブリエについて。	
6	演習	タンデュについて。	
7	演習	体重移動①	
8	演習	体重移動②	
9	演習	クロスフロア強化。回転もの。	
10	演習	クロスフロア強化。ロンデジャンプ。	
11	演習	クロスフロア強化。シェネジュッテ	
12	演習	試験と振り返り	
13	演習	前期振り返り	
14	演習	(ワークショップ)	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	前の週にやった振りの練習等。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	自分のクセというのは立ち姿勢でさえもそれぞれあるものですが、これを直していかないとダンサーとして困ることがたくさんあります。少しずつでも直していきましょう。		



## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション		
授業名	JAZZ I		担当教員名	MICHI
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	<p>学生の持つ身体能力を高め、ダンステクニックの向上、表現力を身につける。自信をもって個性を活かしダンスを披露できる力をつける。</p>			
授業の内容	<p>ストレッチをし、身体の使い方を説明し、ダンスに必要な基礎を教え、ダンスの楽しさと難しさを伝える。</p>			
【実務経験】	<p>スタジオ経営しています。JAPAN DANCE DELIGHT 2016 FINALIST JAZZ SENSATION 2015 2位</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	ストレッチ・アイソレーション・プリエ・クロスフロア・コンビネーション		
2	演習	ストレッチ・プリエ・コンビネーション		
3	演習	ストレッチ・コンビネーションを長くして振り憶えの強化		
4	演習	ストレッチ・クロスフロア・タンジュ等基礎メイン		
5	演習	ストレッチ・プリエ・タンジュ・ジャンプ強化		
6	演習	表現力を押し出したコンビネーションで個性を出す練習		
7	演習	ストレッチ・アイソレーション・プリエ・クロスフロア・コンビネーション		
8	演習	ストレッチ・アイソレーション・プリエ・タンジュ・コンビネーション		
9	演習	協調性をつける為グループでコンビネーション		
10	演習	協調性をつける為グループでコンビネーション		
11	演習	ストレッチ・プリエ・タンジュ・クロスフロア・コンビネーション		
12	演習	試験振り渡しと振り返り		
13	演習	試験と振り返り		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	準備運動ストレッチなど、前回の授業の復習			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験:100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	苦手なことを主にながらんで努力して欲しいです。			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション		
授業名	JAZZ II		担当教員名	MICHI
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	学生の持つ身体能力を高め、ダンステクニックの向上、表現力を身につける。自信をもって個性を活かしダンスを披露できる力をつける。			
授業の内容	ストレッチをし、身体の使い方を説明し、ダンスに必要な基礎を教え、ダンスの楽しさと難しさを伝える。			
【実務経験】 スタジオ経営しています。JAPAN DANCE DELIGHT 2016 FINALIST JAZZ SENSATION 2015 2位				
回数	授業形態	内容		
1	演習	ストレッチ・アイソレーション・プリエ・クロスフロア・コンビネーション		
2	演習	ストレッチ・プリエ・コンビネーション		
3	演習	ストレッチ・コンビネーションを長くして振り憶えの強化		
4	演習	ストレッチ・クロスフロア・タンジュ等基礎メイン		
5	演習	ストレッチ・プリエ・タンジュ・ジャンプ強化		
6	演習	表現力を押し出したコンビネーションで個性を出す練習		
7	演習	ストレッチ・アイソレーション・プリエ・クロスフロア・コンビネーション		
8	演習	ストレッチ・アイソレーション・プリエ・タンジュ・コンビネーション		
9	演習	協調性をつける為グループでコンビネーション		
10	演習	協調性をつける為グループでコンビネーション		
11	演習	ストレッチ・プリエ・タンジュ・クロスフロア・コンビネーション		
12	演習	試験振り渡しと振り返り		
13	演習	試験と振り返り		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	準備運動ストレッチなど、前回の授業の復習			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験:100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	苦手なことを主にながらんで努力して欲しいです。			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	テーマパークベーシック I	担当教員名	八幡谷 有希
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	(1) 基礎の大切さの理解 (2) 身体で表現する事へのレッスンの受け方 (3) プロになる為に必要な事への理解		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 自分の個性を見つけ表現力と技術を身に付ける		
<b>【実務経験】</b> 某大手テーマパークにてダンサークラス。ダンサー、キャラクターのオーディション振り付け			
回数	授業形態	内容	
1	演習	ダンスに必要な基礎を重点的に	
2	演習	エクササイズを重点的に	
3	演習	クロスフロアを基礎を重点的に(ジャンプ/バランス/ターン)	
4	演習	クロスフロアの基礎のおさらいと応用への挑戦(ジャンプ/バランス/ターン)	
5	演習	センターフロアでの振り付けを重点的に	
6	演習	振り付けの復習及び確認	
7	演習	振り付けの復習及び確認	
8	演習	振り付けに対しての魅せ方、表現力を身に付ける	
9	演習	振り付けに対しての魅せ方、表現力を身に付ける	
10	演習	表現力を重点的に自分の短所や長所を理解	
11	演習	自分の個性を理解する	
12	演習	少人数で振り付けを踊れる様に慣れる	
13	演習	前期での復習と後期に向けての目標を立てる	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	常に見られている事を意識して生活し、美の意識も持ちファッションや化粧品も研究し、 自分が綺麗に見える方法を研究してほしい。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験	実技試験：100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	この1年は、まず基本的な動きを確実に自分のものにして、自分の個性も見つけていってほしい		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	テーマパークベーシックII	担当教員名	八幡谷 有希
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	1年次 後期
教室		教室	
授業の到達目標			
(1) 基礎の大切さの理解 (2) 身体で表現する事へのレッスンの受け方 (3) プロになる為に必要な事への理解			
授業の内容			
※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 自分の個性を見つけ表現力と技術を身に付ける			
【実務経験】			
某大手テーマパークにてダンサークラス。ダンサー、キャラクターのオーディション振り付け			
回数	授業形態	内容	
1	演習	クロスフロアを基礎を重点的に(ジャンプ/バランス/ターン)	
2	演習	クロスフロアを基礎を重点的に(ジャンプ/バランス/ターン)	
3	演習	クロスフロアの基礎のおさらいと応用への挑戦(ジャンプ/バランス/ターン)	
4	演習	クロスフロアの基礎のおさらいと応用への挑戦(ジャンプ/バランス/ターン)	
5	演習	センターフロアでの振り付けを重点的に	
6	演習	振り付けの復習及び確認	
7	演習	振り付けの復習及び確認	
8	演習	振り付けに対しての魅せ方、表現力を身に付ける	
9	演習	振り付けに対しての魅せ方、表現力を身に付ける	
10	演習	表現力を重点的に自分の短所や長所を理解	
11	演習	自分の個性を理解する	
12	演習	少人数で振り付けを踊れる様に慣れる	
13	演習	後期での復習と今後に向けての目標を立てる	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	常に見られている事を意識して生活し、美の意識も持ちファッションや化粧も研究し、 自分が綺麗に見える方法を研究してほしい。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験	実技試験：100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	この1年は、まず基本的な動きを確実に自分のものにして、自分の個性も見つけていってほしい		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	STREET I	担当教員名	TOM (富田 麻里)
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>リズム取りから基本STEPをマスターする。 基本STEPの応用ができ、強弱、可動域の大きさなど十分に持ち、踊れるようにする。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ストレッチ～STEPの動きの説明→実践→アドバイスを加える→実践 感覚をつかめるよう色々な言葉で説明を加える→実践を繰り返し間隔をつかんでもらう。</p>		
【実務経験】	DA、大学、ダンススクールでの5年以上の指導歴あり		
回数	授業形態	内容	
1	演習	リズム取り、体でリズムをキャッチ、リズムに乗る	
2	演習	基本STEP紹介→練習、足の運びをマスターする	
3	演習	基本STEP復習、ダウンアップ、強弱つけられるように	
4	演習	ルーティン①	
5	演習	再度ルーティン練習、制度を高める	
6	演習	基本STEP紹介→練習、足の運びをマスターする細い足首の使い方マスター	
7	演習	復習、ダウンアップ、つま先かかとクリアに見せる練習	
8	演習	ルーティン②	
9	演習	ルーティン復習、精度を高める	
10	演習	2つのルーティンを組み合わせたロングルーティン	
11	演習	2つのルーティンの練習、アドバイスしっかり入れる	
12	演習	ルーティン完成させる	
13	演習	試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	前回の復習をしておく。楽譜に目を通す。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験 100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	STREET II	担当教員名	TOM (富田 麻里)
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>リズム取りから基本STEPをマスターする。 基本STEPの応用ができ、強弱、可動域の大きさなど十分に持ち、踊れるようにする。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ストレッチ～STEPの動きの説明→実践→アドバイスを加える→実践 感覚をつかめるよう色々な言葉で説明を加える→実践を繰り返し間隔をつかんでもらう。</p>		
【実務経験】	DA、大学、ダンススクールでの5年以上の指導歴あり		
回数	授業形態	内容	
1	演習	リズム取り、体でリズムをキャッチ、リズムに乗る	
2	演習	基本STEP紹介→練習、足の運びをマスターする	
3	演習	基本STEP復習、ダウンアップ、強弱つけられるように	
4	演習	ルーティン③	
5	演習	再度ルーティン練習、制度を高める	
6	演習	基本STEP紹介→練習、足の運びをマスターする細い足首の使い方マスター	
7	演習	復習、ダウンアップ、つま先かかとクリアに見せる練習	
8	演習	ルーティン④	
9	演習	ルーティン復習、精度を高める	
10	演習	2つのルーティンを組み合わせたロングルーティン	
11	演習	2つのルーティンの練習、アドバイスしっかり入れる	
12	演習	ルーティン完成させる	
13	演習	試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	前回の復習をしておく。楽譜に目を通す。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験 100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	K-POP I	担当教員名	チェ・リョンヒ
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	1年次 前期
授業の到達目標	K-POPのダンススタイルを習得する。1人1人のスキルアップ。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 筋トレ、ウォーキングから始め、K-POPのダンススタイルを通じてそれぞれ個性を活かしてみせる練習。		
【実務経験】 韓国アーティストのバックダンサー・アイドル育成、イ・リョリ、VIXX、ソンシギョン等コンサートにも出演、URIZIPスタジオ・GPスタジオでK-POPダンスを担当。2018年にTaeワンマンライブに出演、他KARAスヨン、マロン、ミン、ミンギ出演			
日程	授業形態	内容	
1	演習	アップ、筋トレ、基礎	
2	演習	アップ、筋トレ、基礎	
3	演習	アップ、筋トレ、ウォーキング、振り	
4	演習	アップ、筋トレ、ウォーキング、新しい振り	
5	演習	アップ、筋トレ、ウォーキング、振り	
6	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
7	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
8	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
9	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
10	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
11	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
12	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
13	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
14	演習	(ワークショップ)	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	筋トレ、アイソレーション、振り確認、見せ方研究！！		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	ファイティン！！		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	K-POP II	担当教員名	チェ・リョンヒ
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	1年次 後期
授業の到達目標	K-POPのダンススタイルを習得する。1人1人のスキルアップ。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 筋トレ、ウォーキングから始め、K-POPのダンススタイルを通じてそれぞれ個性を活かしてみせる練習。		
【実務経験】韓国アーティストのバックダンサー・アイドル育成、イ・リョリ、VIXX、ソンシギョン等コンサートにも出演、URIZIPスタジオ・GPスタジオでK-POPダンスを担当。2018年にTaeワンマンライブに出演、他KARAスヨン、マロン、ミン、ミンギ出演			
日程	授業形態	内容	
1	演習	アップ、筋トレ、基礎	
2	演習	アップ、筋トレ、基礎	
3	演習	アップ、筋トレ、ウォーキング、振り	
4	演習	アップ、筋トレ、ウォーキング、新しい振り	
5	演習	アップ、筋トレ、ウォーキング、振り	
6	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
7	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
8	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
9	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
10	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
11	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
12	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
13	演習	筋トレ→ウォーキング→振り渡し	
14	演習	(ワークショップ)	
15	演習	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	筋トレ、アイソレーション、振り確認、見せ方研究！！		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	ファイティン！！		



## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	POPPIN I	担当教員名	NOBOU (北之防 和志)
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	POPのベーシックを使って踊れるようになる事		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 動きとリズム、音楽を意識しながら踊る		
【実務経験】 指導歴20年			
回数	授業形態	内容	
1	演習	POP、リズム、ウェーブ、ストップ	
2	演習	POP、リズム、ウェーブ、ストップ	
3	演習	POP、リズム、ウェーブ、ストップ	
4	演習	ベーシック、グルーヴ	
5	演習	ベーシック、ウォークアウト	
6	演習	ベーシック、ネックオーバーフレックス	
7	演習	ベーシック、ツイストオーバーフレックス、ボトムファースト	
8	演習	ベーシック、マスターフレックス	
9	演習	ベーシック、ルーティーン①	
10	演習	ベーシック、ルーティーン①の続き	
11	演習	ベーシック、ルーティーン②	
12	演習	ベーシック、ルーティーン②の続き	
13	演習	試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	アイソレ、リズムトレーニング		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験60% 課題40%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	練習を積み重ねて基本的な質やベーシックを向上させていきましょう。それらを使って自由に楽しく踊れるダンサーになって下さい。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスコミュニケーション	
授業名	POPPIN II	担当教員名	NOBOU (北之防 和志)
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	POPのベーシックを使って踊れるようになる事		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 動きとリズム、音楽を意識しながら踊る		
【実務経験】 指導歴20年			
回数	授業形態	内容	
1	演習	POP、リズム、ウェーブ、ストップ	
2	演習	POP、リズム、ウェーブ、ストップ	
3	演習	POP、リズム、ウェーブ、ストップ	
4	演習	ベーシック、グルーヴ	
5	演習	ベーシック、ウォークアウト	
6	演習	ベーシック、ネックオーバーフレックス	
7	演習	ベーシック、ツイストオーバーフレックス、ボトムファースト	
8	演習	ベーシック、マスターフレックス	
9	演習	ルーティーン①	
10	演習	ルーティーン①の続き	
11	演習	ルーティーン②	
12	演習	ルーティーン②の続き	
13	演習	試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	アイソレ、リズムトレーニング		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験60% 課題40%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	練習を積み重ねて基本的な質やベーシックを向上させていきましょう。それらを使って自由に楽しく踊れるダンサーになって下さい。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ヴォーカルコミュニケーション		
授業名	ヴォイストレーニング I	担当教員名	吉村元子	
時間数	30	必修・選択	配当年次	1 年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	歌う為の基礎を学び、基礎力を定着させる			
授業の内容	ヴォーカリストとしての体作りと発声法の習得が主な内容。トレーニング方法を知り、積み重ねていくことで、歌の表現の幅を広げる。			
【実務経験】	1988年大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、教員免許取得。在学中より、バックコーラスとして宝塚歌劇団やTV、CMIに出演。2000年よりヴォイストレーナーとして指導にあたり、数々のアーティストを輩出している。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	ヴォーカリストとしての心構え、VTの必要性		
2	演習	歌う為のフォーム(正しい姿勢、見せ方)		
3	演習	発声のメカニズム(歌う時の体の仕組み)		
4	演習	ナチュラルヴォイス(自分のベストな声を知る)		
5	演習	腹式呼吸		
6	演習	表情筋と声の繋がり		
7	演習	プレスコントロール(自由な歌唱表現の為のプレストレーニング)		
8	演習	ピッチコントロール(正しい音程を身につける為のトレーニング)		
9	演習	母音と子音の役割		
10	演習	正しい発音を身につける為の発音・滑舌トレーニング		
11	演習	共鳴について(声の響きを理解する)		
12	演習	リズムトレーニング		
13	演習	まとめ		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	トレーニング前は体をほぐしておく。トレーニング内容については、反復練習。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	毎日の積み重ねが力になります。基本に忠実にトレーニングしながら、自分の声の魅力を存分に知り、歌に活かしましょう。			

## 総合芸術科昼間部Ⅰ部 シラバス

授業科目			ヴォーカルコミュニケーション	
授業名	ヴォイストレーニングⅡ		担当教員名	吉村元子
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	歌う為の基礎を学び、基礎力を定着させる			
授業の内容	ヴォーカリストとしての体作りと発声法の習得が主な内容。トレーニング方法を知り、積み重ねていくことで、歌の表現の幅を広げる。			
【実務経験】	1988年大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、教員免許取得。在学中より、バックコーラスとして宝塚歌劇団やTV、CMに出演。2000年よりヴォイストレーナーとして指導にあたり、数々のアーティストを輩出している。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	前期の復習をしながら、トレーニングの流れを理解し実践する。		
2	演習	低音域のトレーニングにより、低音域の声を安定させる。		
3	演習	低音域の安定と中音域への響きのスムーズな移行を学び、実践する。		
4	演習	低音域、中音域、高音域それぞれの共鳴を学び、実践する。		
5	演習	チェンジも含めた声のスムーズな移行の仕方を学び、実践する。		
6	演習	リーディング(楽譜を用いて歌唱法を学び、楽譜ベースで歌えるようになる)		
7	演習	ブレスコントロール(ブレスを活かした歌唱を習得する)		
8	演習	リズムトレーニング(正確なリズムを理解し、歌唱できるようになる)		
9	演習	ハーモニー練習(声のバランスを考えながらハーモニーを作れるようになる)		
10	演習	課題曲①(これまでに習得した発声法を歌唱に活かす)		
11	演習	課題曲②(グループごとにハーモニーも含めて練習)		
12	演習	課題曲発表(トレーニング内容が歌の表現に繋がるように)		
13	演習	課題曲発表の振り返りと個々の新たなトレーニング内容を作成する。		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	トレーニング前は体をほぐしておく。トレーニング内容については、反復練習。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	毎日の積み重ねが力になります。基本に忠実にトレーニングしながら、自分の声の魅力を存分に知り、歌に活かしましょう。			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ヴォーカルコミュニケーション		
授業名	ゴスペルアンサンブル I	担当教員名	池末 信	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」それらを体感し信じる。			
授業の内容	<p>世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。</p> <p>【実務経験】アメリカを代表するゴスペルアーティストRichard Hartley、グラミー賞3回受賞のDorinda Clark Coleが参画するNYゴスペルフェスティバルへ日本代表ディレクターとして共演、指揮とリードを担当し高い評価を受ける。</p>			
日程	授業形態	内容		
1	演習	説明、NLPワーク、新曲2曲レクチャー		
2	演習	メディテーションワーク、2曲復習、新曲1曲		
3	演習	3曲復習、新曲1曲、1曲パフォーマンス		
4	演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー		
5	演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー		
6	演習	3曲新曲、選択理論ワーク		
7	演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス		
8	演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス		
9	演習	プレイフルワーク、楽曲復習		
10	演習	楽曲復習、新曲レクチャー		
11	演習	楽曲復習、新曲レクチャー		
12	演習	楽曲復習、ケイティワーク		
13	演習	新曲レクチャー		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	①週目は準備はなく、②週目以降は楽曲復習・学びの振り返り			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験: 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	心技体において確実な成長を体感し、自分自身を自由にさせ、学びを信じ、「ゴスペル学びの先に本物になれる」			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ヴォーカルコミュニケーション	
授業名	ゴスペルアンサンブルⅡ	担当教員名	池末 信
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	心技体において確実な成長を体感し、講師からの客観的視点より成長を認めれること。それらをゴスペルアンサンブルメンバー全員で達成できていること。		
授業の内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。		
【実務経験】アメリカを代表するゴスペルアーティストRichard Hartley、グラミー賞3回受賞のDorinda Clark Coleが参画するNYゴスペルフェスティバルへ日本代表ディレクターとして共演、指揮とリードを担当し高い評価を受ける。			
日程	授業形態	内容	
1	演習	選択理論ワーク、新曲3曲レクチャー	
2	演習	楽曲復習	
3	演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	
4	演習	新曲2曲レクチャー、パフォーマンスレクチャー	
5	演習	楽曲復習、動き復習	
6	演習	ケイティワーク、2曲新曲	
7	演習	楽曲復習、動き復習	
8	演習	楽曲復習	
9	演習	新曲2曲レクチャー、楽曲復習	
10	演習	発表会リハーサル演習	
11	演習	発表会リハーサル演習	
12	演習	発表会リハーサル演習	
13	演習	総復習	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	①週目は準備はなく、②週目以降は楽曲復習・学びの振り返り		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験: 100%	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	心技体において確実な成長を体感し、自分自身を自由にさせ、学びを信じ、「ゴスペル学びの先に本物になれる		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ヴォーカルコミュニケーション	
授業名	ヴォーカルテクニック I	担当教員名	桜田ヒロキ
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>・声の発せられるメカニズムの理解・自分の行うべき改善目標の具体化</p> <p>・具体化された目標を実際に到達させるためのトレーニングの日常化(トレーニング・メニューは別紙ご参照ください)</p> <p>・隔週で個別に声の状態を確認し、常に的確なエクササイズの割り当てを目指す</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ハリウッド式ボイストレーニング(VocalizeUで使われる発声理論)を用いて音域の拡大・音色の改善・声量の増強を行う・歌唱スタイルの学習・シンガーのためのリズムトレーニングの習得</p>		
【実務経験】 マイケル・ジャクソン、スティービー・ワンダーのコーチSeth Riggsのトレーニングメソッドの日本人2人目の公認インストラクター。アーティスト担当、ライブ帯同多数。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	セミナー形式でそれぞれの悩みを聞き、実際に解決。前期に行うメニューのオーバー・ビューを見せる	
2	演習	トレーニング・メニュー、声の弱点タイプの理解(別紙参照)	
3	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
4	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、生理学的な声帯の動きを理解する	
5	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
6	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、ビブラートに対する理解・エクササイズ	
7	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
8	演習	歌唱スタイル・歌い回しについて解説 リズムトレーニング8分系の曲のグループ練習	
9	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
10	演習	歌唱スタイル・歌い回しについて解説 リズムトレーニング3連符系の曲のグループ練習	
11	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
12	演習	歌唱スタイル・歌い回しについて解説 リズムトレーニング16分音符系の曲のグループ練習	
13	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	個人練習		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験: 100%	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	発声法を学ぶだけでなく、音声学や生理学の観点からも声について学習し、自分で声をトレーニングできるようになる事を目指しましょう。理論までしっかり固めておけば、卒業後にトレーナーとして働く事も出来ますよ!		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ヴォーカルコミュニケーション	
授業名	ヴォーカルテクニクⅡ	担当教員名	桜田ヒロキ
時間数	60	必修・選択	必修・選択
曜日・時限		配当年次	1年次 後期
授業の到達目標		教室	
<p>・声の発せられるメカニズムの理解・自分の行うべき改善目標の具体化</p> <p>・具体化された目標を実際に到達させるためのトレーニングの日常化(トレーニング・メニューは別紙ご参照ください)</p> <p>・隔週で個別に声の状態を確認し、常に的確なエクササイズの割り当てを目指す</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ハリウッド式ボイストレーニング(VocalizeUで使われる発声理論)を用いて音域の拡大・音色の改善・声量の増強を行う・歌唱スタイルの学習・シンガーのためのリズムトレーニングの習得</p>		
<p><b>【実務経験】</b> マイケル・ジャクソン、スティービー・ワンダーのコーチSeth Riggsのトレーニングメソッドの日本人2人目の公認インストラクター。アーティスト担当、ライブ帯同多数。</p>			
回数	授業形態	内容	
1	演習	セミナー形式でそれぞれの悩みを聞き、実際に解決。前期に行うメニューのオーバー・ビューを見せる	
2	演習	トレーニング・メニュー、声の弱点タイプの理解(別紙参照)	
3	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
4	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、生理学的な声帯の動きを理解する	
5	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
6	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、ビブラートに対する理解・エクササイズ	
7	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
8	演習	歌唱スタイル・歌い回しについて解説 リズムトレーニング8分系の曲のグループ練習	
9	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
10	演習	歌唱スタイル・歌い回しについて解説 リズムトレーニング3連符系の曲のグループ練習	
11	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
12	演習	歌唱スタイル・歌い回しについて解説 リズムトレーニング16分音符系の曲のグループ練習	
13	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	個人練習		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験:100%	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	<p>発声法を学ぶだけでなく、音声学や生理学の観点からも声について学習し、自分で声をトレーニングできるようになる事を目指しましょう。理論までしっかり固めておけば、卒業後にトレーナーとして働く事も出来ますよ！</p>		



## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	発声・滑舌 I	担当教員名	松本拓也
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>しっかり届く声、明瞭な発音、豊かな表現を身につけてわかりやすく印象良く文章が読めたり、話したりできるようになる！</p>		
授業の内容	<p>腹式呼吸による発声、明瞭な発音のためのトレーニングに加え、共通語のアクセントや抑揚、間、強弱、緩急、強弱など表現技術も学びます。</p>		
実務経験	<p>FM大阪ニュース業務。ABC朝日放送ラジオDJ。日本直販はじめ数社のテレビショッピングやCMのナレーション多数。朗読・話し方・スピーチの講師など。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	オリエンテーション 発声の理論と実技 ウォーミングアップ 発声実技	
2	演習	★以下↓毎回 発声・滑舌トレーニング ア行と「アメンボ赤いな」	
3	演習	「アメンボ赤いな」 共通語のアクセント 表現技術(強調・間・抑揚など)	
4	演習	★アクセントと表現技術は以下、毎回 鼻濁音・無声化について	
5	演習	CM原稿を読んでみる(録音) ※生徒の進度を見ながら滑舌練習	
6	演習	表現とアクセントなど、ここまでのおさらい ※録音⇒モニター	
7	演習	「外郎売り」冒頭部分(暗記)	
8	演習	群読:届く声が出るように みんなでハキハキ声を出す	
9	演習	群読:表現を工夫しながらみんなで読み継いでいく	
10	演習	「外郎売り」「アメンボ赤いな」で発声と滑舌の基礎練習	
11	演習	実際に文章を読んでみる	
12	演習	実際に文章を読んでみる	
13	演習	総まとめ(弱い部分を個々にアドバイス)	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	各自、普段の生活の中でよりレベルの高い発声・滑舌を意識する		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%	
教材	教科書	発声・滑舌 アクセント トレーニング教本	
	参考書	※必要に応じて 「日本語しことば協会 教本」	
学生への メッセージ			

## 総合芸術科昼間部Ⅰ部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	発声・滑舌Ⅱ	担当教員名	松本拓也
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>しっかり届く声、明瞭な発音、豊かな表現力の基本を身につける。</p> <p>10メートル前の人の耳にもちゃんと届く発声。聞き取りやすい明瞭な発音、棒読みでない変化のある読みができるようになること。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>これまでのキャリアから、声の出し方、表情に至るまで、タレントして成立するための基本を個人個人の持ち味に合わせて指導します。例えば、表現が好きな子なら“もっと笑って！ その場にいるような気持ちになって～！”と具体的なアドバイスでその生徒の力を伸ばします。</p>		
【実務経験】FM大阪ニュース業務。ABC朝日放送ラジオDJ。日本直販はじめ数社のテレビショッピングやCMのナレーション多数。朗読・話し方・スピーチの講師など。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	オリエンテーション 発声の理論と実技 ウォーミングアップなど	
2	演習	◆以下、毎回 テキストを使って各行の滑舌練習 原稿を読む	
3	演習	アクセント、プロミネンス、イントネーションなどの復習 ・実技	
4	演習	鼻濁音・無声化の復習 文章を読む	
5	演習	「あめんぼ赤いな」「外郎売り」がちゃんとできるか？確認！	
6	演習	ここまでのおさらい。理論や実技…ハキハキ声が出るように実技。	
7	演習	CM原稿で、声のコントロール、表現力を身につける	
8	演習	詩の朗読(ひとり読み)	
9	演習	ナレーション原稿のひとり読み	
10	演習	進み具合によって教材を選びます。発声・滑舌・表現力のおさらい。	
11	演習	進み具合によって教材を選びます。発声・滑舌・表現力のおさらい。	
12	演習	実技+翌週の試験の要領告知など	
13	演習	試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	テキストを使った予習復習		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技と筆記(70%) 授業内評価(実技/小テストなど30%)	
教材	教科書	発声・滑舌 アクセント トレーニング教本	
	参考書	※授業の進み具合を見ながら作る、講師のオリジナルプリント	
学生への メッセージ	タレントとしての基礎が愉しく身につきますよ！！		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション		
授業名	舞台プロジェクト (リコモーション) I	担当教員名	中西 邦子(リコモーション)	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	後期の舞台公演に向けての基礎技術、グループ行動			
授業の内容	<p>月1回ペースでのグループ発表。(5～10分程度)</p> <p>あらかじめ決めたテーマに基づき学生自身で台本を作成。</p> <p>発表を通し、発声・滑舌の基礎技術、観客への伝え方、また自分自身の客観的な視点などを向上させる。</p> <p><b>【実務経験】</b></p> <p>大阪に拠点を持つプロダクション「リコモーション」所属の俳優。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業内容説明。基礎練、発声。発表①に向けての創作活動。		
2	演習	基礎練、発声。発表①に向けての創作活動。		
3	演習	基礎練、発声。発表①に向けての創作活動。		
4	演習	基礎練、発声。発表①に向けての創作活動。		
5	演習	発表①		
6	演習	基礎練、発声。発表②に向けての創作活動。		
7	演習	基礎練、発声。発表②に向けての創作活動。		
8	演習	基礎練、発声。発表②に向けての創作活動。		
9	演習	発表②		
10	演習	基礎練、発声。発表③に向けての創作活動。		
11	演習	基礎練、発声。発表③に向けての創作活動。		
12	演習	発表③。夏期課題説明。		
13	演習	夏期課題発表		
14	演習			
15	演習			
準備学習 時間外学習	発声・滑舌等の基礎的な練習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技試験100%		
教材	教科書	特になし		
	参考書	特になし		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション		
授業名	舞台プロジェクト(リコモーション)Ⅱ	担当教員名	中西 邦子(リコモーション)	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	後期の舞台公演に向けての基礎技術、グループ行動			
授業の内容	<p>月1回ペースでのグループ発表。(5～10分程度)</p> <p>あらかじめ決めたテーマに基づき学生自身で台本を作成。</p> <p>発表を通し、発声・滑舌の基礎技術、観客への伝え方、また自分自身の客観的な視点などを向上させる。</p> <p><b>【実務経験】</b></p> <p>大阪に拠点を持つプロダクション「リコモーション」所属の俳優。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	基礎練、発声。発表①に向けての創作活動。		
2	演習	基礎練、発声。発表①に向けての創作活動。		
3	演習	発表①		
4	演習	公演出演者オーディション実施・決定		
5	演習	稽古開始。台本(一部)使用。		
6	演習	稽古		
7	演習	稽古。上演台本完成予定。キャスト決定。		
8	演習	稽古		
9	演習	稽古		
10	演習	稽古		
11	演習	稽古		
12	演習	稽古。以降集中稽古。		
13	演習	卒業・進級公演の総括。		
14	演習			
15	演習			
準備学習 時間外学習	発声・滑舌等の基礎的な練習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技試験100%		
教材	教科書	特になし		
	参考書	特になし		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	アクション I	担当教員名	杉本 佳幹
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	アクションを通して、技術もそうですが挨拶や話の受け答えの大切さを学んでもらう事を目標とする。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 実際の撮影現場で行われたアクションを再現し、それについて解説をしながら、生徒がアクションを体現することが出来る。		
【実務経験】 映画：関ヶ原、引っ越し大名 ドラマ：ミナミの帝王、舞台、CM、イベント 等			
日程	授業形態	内容	
1	演習	基本動作、立ち回りが出来るようになる	
2	演習	基本動作、マット(受け身)、立ち回りが出来るようになる	
3	演習	基本動作、マット(受け身)、立ち回りが出来るようになる	
4	演習	基本動作、マット(受け身、リアクション)、立ち回りが出来るようになる	
5	演習	マット(受け身、リアクション)、立ち回り(1:大人数)が出来るようになる	
6	演習	基本動作、マット(受け身、リアクション)、立ち回りが出来るようになる	
7	演習	応用動作、マット(受け身、リアクション)、立ち回りが出来るようになる	
8	演習	応用動作、マット(受け身、リアクション)、立ち回りが出来るようになる	
9	演習	トランポリン、トランポリンアクションを理解することが出来る	
10	演習	応用動作、マット(受け身、リアクション)、立ち回りが出来るようになる	
11	演習	応用動作、マット(受け身、リアクション)、立ち回りが出来るようになる	
12	演習	実技試験の内容発表、練習	
13	演習	実技試験と振り返り	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	自宅等で柔軟をし、体を柔らかくする		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	1.実技試験(60%) 3.課題(40%)	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	皆が現場に出た時に、少しでも役に立ったと思える授業にしたいと思っています。 よろしくお願ひ致します。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	アクション II	担当教員名	杉本 佳幹
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>アクションを通じて、第一にコミュニケーション能力の向上、その上で技術を学んで頂き、プロで活躍出来る事を目標とする。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>実際の撮影、舞台、イベントの現場で行われたプロのアクションシーンを再現し 解説をしながら、実際に生徒様にアクションの体験をして頂く。</p>		
【実務経験】			
映画：関ヶ原、引越し大名 ドラマ：ミナミの帝王、舞台、CM、イベント 等			
回数	授業形態	内容	
1	演習	アクションの様々な動きの解説、体験。立ち回り。	
2	演習	マット(受け身、リアクション)基本動作(突き、蹴り)立ち回り	
3	演習	マット(受け身、リアクション)基本動作(突き、蹴り)立ち回り	
4	演習	マット(受け身、リアクション)障害物を置いてのアクション	
5	演習	マット(受け身、リアクション)トランポリンを使ったアクション	
6	演習	マット(受け身、リアクション)基本動作(突き、蹴り)立ち回り	
7	演習	グループ分けをし、自分達でアクションを作る	
8	演習	マット(受け身、リアクション)応用動作(突き、蹴り)立ち回り	
9	演習	マット(受け身、リアクション)応用動作(突き、蹴り)立ち回り	
10	演習	立ち回り(1人VS多人数)	
11	演習	マット(受け身、リアクション)応用動作(突き、蹴り)立ち回り	
12	演習	マット(受け身、リアクション)応用動作(突き、蹴り)立ち回り	
13	演習	グループ分けをし、自分達でアクションを作る	
14		(ワークショップ)	
15	1. 実技試験(70%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	自宅等で柔軟をし、体を柔らかくする		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1.実技試験(70%) 3.課題(30%)	
教材	教科書	特になし	
	参考書	特になし	
学生への メッセージ	皆さんが現場へ出た時に、アクションの授業を受けておいて良かったと、役に立ったと 思えるような授業にしていきたいと、考えています！		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	インプロビゼーション I	担当教員名	広瀬 謙
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	演技理論、演習を用いて、表現者としてのスキルをあげていくことは当然ではあるが、最終的には、人生全てにおいて、どのような困難が待ち受けていると、それを乗り越えるための思考や力をつけていってもらうことが最大の目標。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 今後、演技をやっていくにあたり、どう仕事と向き合うか、またどう自分と向き合っていくか、そういった「心構え」や「基礎」、「表現者としてどのような思考で挑めばいいか」をベースに、インプロビゼーション、メソッドアクティングを用いて、演技力、人間力、コミュニケーション能力を磨いていく。		
【実務経験】	1995年より芸能活動を始め、映画・テレビ・舞台で俳優として活動を続け、2011年より、演技やセミナーなど講師業もスタートさせる。現在は、劇団を立ち上げ、毎年公演。出演以外に脚本、演出も手掛ける。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	表現者としての考え方。(俳優とは？人間力について)	
2	演習	発想と柔軟.1(固定観念の存在、排除、楽しむということについて.1)	
3	演習	発想と柔軟.2(必要性、想像力、楽しむということについて.2)	
4	演習	発想と柔軟.3(目的意識、楽しむということについて.3)	
5	演習	発想と柔軟.4(発想力、柔軟思考、楽しむということについて.4)	
6	演習	アクティビティ(今までのことを踏まえ、実際に「する」ということを体感させる)	
7	演習	伝達と目的意識(伝えるということの重要性)	
8	演習	感覚の再現(感覚を意識し、感情開放へと繋いでいく)	
9	演習	感情開放.1(想像力、実際に体感させる)	
10	演習	感情開放.2(シーンスタディ、エチュード)	
11	演習	役者構築と不自由について(制限された中で楽しむということについて)	
12	演習	役者視点.1(台本の読み方)	
13	演習	役者視点.2(俳優としての挑み方、前期の集大成)	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	何事にも関心を持つよう心掛けてください。また、本を読む習慣をつけてください。		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験	実技試験 100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	表現者としての心構え、基礎を学んでいってもらいます。 難しく考えず、楽しむことを追求するところから始めます。		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	インプロビゼーションII	担当教員名	広瀬謙
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	演技理論、演習を用いて、表現者としてのスキルをあげていくことは当然ではあるが、最終的には、人生全てにおいて、どのような困難が待ち受けていると、それを乗り越えるための思考や力をつけていってもらうことが最大の目標。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 今後、表現の仕事をしていくにあたり、どう仕事と向き合うか、またどう自分と向き合っていくか、そういった「心構え」や「基礎」、「表現者としてどのような思考で挑めばいいか」をベースに、インプロビゼーション、メソッドアクティングを用いて、演技力、人間力、コミュニケーション能力を磨いていく。		
【実務経験】	1995年より芸能活動を始め、映画・テレビ・舞台で俳優として活動を続け、2011年より、演技やセミナーなど講師業もスタートさせる。現在は、劇団を立ち上げ、毎年公演。出演以外に脚本、演出も手掛ける。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	前期の復習を兼ねた基礎学習。(インプロについて)	
2	演習	発想と柔軟.5(固定観念の存在、排除、楽しむということ)	
3	演習	発想と柔軟.6(必要性、想像力、楽しむということ)	
4	演習	発想と柔軟.7(目的意識、楽しむということ)	
5	演習	発想と柔軟.8(発想力、柔軟思考、楽しむということ)	
6	演習	伝達と目的意識(伝えるということの重要性)	
7	演習	エチュード、シーンスタディ(シーンをういた感情開放)	
8	演習	役者構築と不自由について(制限された中で楽しむということについて)	
9	演習	エチュード、シーンスタディ(シーンをういた感情開放)	
10	演習	役者視点.1(台本の読み方)	
11	演習	エチュード、シーンスタディ(シーンをういた感情開放)	
12	演習	エチュード、シーンスタディ(シーンをういた感情開放)	
13	演習	役者視点.2(俳優としての挑み方、後期の集大成)	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	自分にとって感情が動いたことを集めてください。(喜怒哀楽自由)		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験	実技試験 100%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	表現者としての心構え、基礎を学んでいってもらいます。 難しく考えず、楽しむことを追求するところから始めます。		



## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション		
授業名	2.5次元プロジェクト I	担当教員名	早川 康介(SET)	
時間数	120	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	IPを用いた2.5次元の舞台制作を通じて、技術的な向上、プロとしての意識を獲得する。			
授業の内容	2.5次元の舞台制作を通じて、芝居の基本から本番までの流れを経験する。			
【実務経験】				
スーパー・エキセントリックシアター所属の演出家を作品によって手配。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	演技基礎1		
2	演習	演技基礎2		
3	演習	オーディション		
4	演習	衣装合わせ		
5	演習	メイク合わせ		
6	演習	台本を使用した演技指導1		
7	演習	台本を使用した演技指導2		
8	演習	台本を使用した演技指導3		
9	演習	通し稽古1		
10	演習	通し稽古2		
11	演習	通し稽古3		
12	演習	ゲネプロ		
13	演習	本番		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	授業内容をよく理解し翌週までに練習をしておく			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験	1.実技試験を100%		
教材	教科書	オリジナル台本		
	参考書	なし		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション		
授業名	ナレーション I	担当教員名	藤野 孝教	
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	<p>原稿の内容に応えられる豊かな表現力を身につける。 アクセント、鼻濁音等の、アナウンスメントの基本を押さえつつ、声のコントロール術を身につける。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 冒頭に声帯をコントロールするための筋肉を鍛える。発声トレーニングを行い、原稿読みに入る。 原稿は、ニュース、CM、古典など、実際の放送で使用されたもの、または、使用されるレベルのものを用意し、一人一人の個性が伸ばせるような土台作りをする。</p>			
【実務経験】株式会社 昭和プロダクション所属。フリーアナウンサー ラジオパーソナリティー、TV、ラジオのナレーターをつとめる。 ヴォイストレーナーとしても活動し、演技やアナウンスなど、喋る仕事のための発声トレーニングを行う。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業内容とヴォイスサンプルについての説明／自己紹介		
2	演習	ナレーション技術の基礎(1)……発声、アクセントについて		
3	演習	ナレーション技術の基礎(2)……発音、様々な強調の方法について		
4	演習	新人発掘プレゼンテーションに向けたヴォイスサンプル模擬収録(1)		
5	演習	新人発掘プレゼンテーションに向けたヴォイスサンプル模擬収録(2)		
6	演習	新人発掘プレゼンテーションに向けたヴォイスサンプル模擬収録(3)		
7	演習	ナレーション技術の基礎(3)……無声化音について		
8	演習	ナレーション技術の基礎(4)……状態副詞について		
9	演習	映像を使ったCMナレーション(1)		
10	演習	夏季休暇の課題の説明／映像を使ったCMナレーション(2)		
11	演習	映像を使ったCMナレーション(3)		
12	演習	夏季休暇の課題の発表		
13	演習	夏季休暇の課題の発表(予備日)／前期の振り返りと後期に向けての目標確認		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	1日1～3分 授業で行う発声の反復トレーニング			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%		
教材	教科書	講師 藤野が用意するナレーション原稿		
	参考書	日本語アクセント辞典		
学生への メッセージ	基礎があつてこそ個性が輝きます 高い声、低い声、だみ声、色んな音声表現を身につけていきましょう			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		アクティングコミュニケーション	
授業名	ナレーション II	担当教員名	藤野 孝教
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>原稿の内容に応えられる豊かな表現力を身につける。 アクセント、鼻濁音等の、アナウンスメントの基本を押さえつつ、声のコントロール術を身につける。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>冒頭に声帯をコントロールするための筋肉を鍛える。発声トレーニングを行い、原稿読みに入る。 原稿は、ニュース、CM、古典など、実際の放送で使用されたもの、または、使用されるレベルのものを用意し、一人一人の個性が伸ばせるような土台作りをする。</p>		
<p>【実務経験】株式会社 昭和プロダクション所属。フリーアナウンサー ラジオパーソナリティ、TV、ラジオのナレーターをつとめる。 ヴォイストレーナーとしても活動し、演技やアナウンスなど、喋る仕事のための発声トレーニングを行う。</p>			
回数	授業形態	内容	
1	演習	後期授業内容の説明／機材担当の割り振り／ヴォイスサンプルについて	
2	演習	バラエティ番組のナレーション(1)	
3	演習	バラエティ番組のナレーション(2)	
4	演習	バラエティ番組のナレーション(3)	
5	演習	VPナレーション「幼児向け教養DVD “あつまれねこちゃん” (1)」	
6	演習	VPナレーション「幼児向け教養DVD “あつまれねこちゃん” (2)」	
7	演習	VPナレーション「幼児向け教養DVD “あつまれねこちゃん” (3)」	
8	演習	掛け合いのナレーション「クリスマス・イベント告知(1)」	
9	演習	掛け合いのナレーション「クリスマス・イベント告知(2)」	
10	演習	VPナレーション「DVD “世界の鉄道 絶景の旅 美しき地球の箱庭 ” (1)」	
11	演習	VPナレーション「DVD “世界の鉄道 絶景の旅 美しき地球の箱庭 ” (2)」	
12	演習	VPナレーション「DVD “世界の鉄道 絶景の旅 美しき地球の箱庭 ” (3)」	
13	演習	VPナレーション「DVD “世界の鉄道 絶景の旅 美しき地球の箱庭 ” (4)」	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	1日1～3分 授業で行う発声の反復トレーニング		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験100%	
教材	教科書	講師 藤野が用意するナレーション原稿	
	参考書	日本語アクセント辞典	
学生への メッセージ	基礎があつてこそ個性が輝きます 高い声、低い声、だみ声、色んな音声表現を身につけていきましょう		

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

科目名		アクティングコミュニケーション		
授業名	殺陣 I		担当教員名	ドキ タイジ
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	殺陣という「人の生き死に」を表現する事を通じて「生き様」と「死に様」を追求する。殺陣=アクションではなく、殺陣=ドラマであると認識し、表現者にとっての幅を広げる事を目的とし、前期中に殺陣の基礎となる部分を習得する事を目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 見た目の派手さが取り上げられやすい現代殺陣だが、脈々と続く先人の教えから『守』『破』『離』の大切さを伝える。			
【実務経験】 俳優・殺陣師・演出家・脚本家・小説家				
回数	授業形態	内容		
1	演習	足さばき・素振り・打ち込み(交互)を習得することが出来る		
2	演習	足さばき・素振り・左(右)廻り・打ち込み(交互)を理解することが出来る		
3	演習	技き銅・形・打ち込み・千鳥・突き・左(右)廻りを理解することが出来る		
4	演習	突き・打ち込み・千鳥・技き銅・左(右)廻りを習得することが出来る		
5	演習	右回り・左回り・山形・なし割を理解することが出来る		
6	演習	なし割・山形・技き銅を習得することが出来る		
7	演習	基本型の復習・八の字・ちどりを理解することが出来る		
8	演習	袈裟り・八の字を理解することが出来る		
9	演習	袈裟り・八の字を習得することが出来る		
10	演習	立ち廻り(1:3)を理解することが出来る		
11	演習	立ち廻り(1:3)を理解することが出来る		
12	演習	立ち廻り(1:3)を理解することが出来る		
13	演習	立ち廻り(1:3)を習得することが出来る		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	舞台観劇・ワークショップ・映画(時代劇・洋画・アクション物) 反復稽古			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	ある有名な殺陣師の言葉があります。 「『殺陣』とは実際に人を斬る事の出来る技術を持ちながら、寸止めや空振り、斬った様に見える事の出来るエンターテインメントの真髄である」 表現者の心が、刀を通して伝わる『殺陣』は、鍛錬次第で極上のドラマになります。 共に表現の幅を広げましょう！			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

科目名		アクティングコミュニケーション		
授業名	殺陣 II		担当教員名	ドキ タイジ
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	<p>殺陣という「人の生き死に」を表現する事を通じて「生き様」と「死に様」を追求する。殺陣=アクションではなく、殺陣=ドラマであると認識し、表現者にとっての幅を広げる事を目的とし、前期中に殺陣の基礎となる部分を習得する事を目標とする。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 見た目の派手さが取り上げられやすい現代殺陣だが、脈々と続く先人の教えから『守』『破』『離』の大切さを伝える。</p>			
【実務経験】				
俳優・殺陣師・演出家・脚本家・小説家				
回数	授業形態	内容		
1	演習	基本型の復習をし、理解することが出来る		
2	演習	基本型の復習をし、習得することが出来る		
3	演習	逆手切り・槍の立ち居振る舞いを理解することが出来る		
4	演習	逆手切り・槍の立ち居振る舞いを習得することが出来る		
5	演習	二刀流・立ち回りを理解することが出来る		
6	演習	二刀流・立ち回りを習得することが出来る		
7	演習	槍・六尺を理解することが出来る		
8	演習	槍・六尺を理解することが出来る		
9	演習	槍・六尺を理解することが出来る		
10	演習	槍・六尺を習得することが出来る		
11	演習	居合い・立ち回りを理解することが出来る		
12	演習	居合い・立ち回りを理解することが出来る		
13	演習	居合い・立ち回りを習得することが出来る		
14		(ワークショップ)		
15		(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	<p>舞台観劇・ワークショップ・ 映画(アクション物・時代劇・洋画)・反復稽古</p>			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	<p>ある有名な殺陣師の言葉があります。 「『殺陣』とは実際に人を斬る事の出来る技術を持ちながら、寸止めや空振り、斬った様に見せる事の出来るエンターテインメントの真髄である」 表現者の心が、刀を通して伝わる『殺陣』は、鍛錬次第で極上のドラマになります。 共に表現の幅を広げましょう！</p>			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		ダンスプロジェクト		
授業名	ダンスプロジェクト I		担当教員名	IPPEI
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標		ダンスイベントに向けて、ダンス作品制作が出来るようになる。		
授業の内容		振付、構成、演出、音響、照明などの基礎知識をまなび、本番に向けての制作全般を学ぶ。 本番後フィードバックを行い、次の作品制作へと繋げていく。		
【実務経験】		アーティストの振付、ライブ演出、ダンサーディレクション。		
回数	授業形態	内容		
1	演習	振付の考え方		
2	演習	振付制作		
3	演習	振付制作		
4	演習	振付の意味付け		
5	演習	振付制作		
6	演習	本番及び試験		
7	演習	振付の意味付け		
8	演習	構成の考え方		
9	演習	振付制作		
10	演習	振付制作		
11	演習	構成の考え方		
12	演習	振付制作		
13	演習	振付制作		
14	演習	本番及び試験		
15	演習	振り返りと反省会		
準備学習 時間外学習		準備運動ストレッチなど、前回の授業の復習		
成績評価		1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験:100%	
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目			ダンスプロジェクト	
授業名	ダンスプロジェクトⅡ		担当教員名	IPPEI
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	ダンスイベントに向けて、ダンス作品制作が出来るようになる。			
授業の内容	振付、構成、演出、音響、照明などの基礎知識をまなび、本番に向けての制作全般を学ぶ。本番後フィードバックを行い、次の作品制作へと繋げていく。			
【実務経験】 アーティストの振付、ライブ演出、ダンサーディレクション。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	振付の意味付け		
2	演習	振付の意味付け		
3	演習	振付制作		
4	演習	振付制作		
5	演習	振付制作		
6	演習	本番及び試験		
7	演習	振付制作		
8	演習	構成の考え方		
9	演習	構成の考え方		
10	演習	振付制作		
11	演習	振付制作		
12	演習	振付制作		
13	演習	振付制作		
14	演習	本番及び試験		
15	演習	振り返りと反省会		
準備学習 時間外学習	準備運動ストレッチなど、前回の授業の復習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技試験: 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		スタッフワークプロジェクト	
科目名	舞台制作1	担当教員名	水戸 裕
時間数	120	配当年次	1年次
曜日・時限	必修・選択 選択	教室	
授業の到達目標	<p>舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力を高めさせる。最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に着ける</li> <li>・ミュージカル「明日への扉」の成功を最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする</li> </ul>		
【実務経験】	<p>吉本新喜劇やV6、KinKiKids、関ジャニ∞、ミュージカル『ピーターパン』などの舞台監督・舞台制作を手がける。</p>		
回数	演習	内容	
1	演習	舞台の基礎知識①～ガイダンス・舞台全般知識・入学式の進行と美術を確認する	
2	演習	舞台の基礎知識②～舞台機構・舞台名称などの舞台知識	
3	演習	舞台の基礎知識③～寸法、図面、タイムスケジュール	
4	演習	舞台の基礎知識④～木工製作、木材知識、工具知識	
5	演習	基礎製作 I ①～学園祭対応製作、木工作品製作	
6	演習	基礎製作 I ②～学園祭対応製作、木工作品製作	
7	演習	基礎製作 I ③～学園祭対応製作、木工作品製作	
8	演習	図面製作基礎知識①～製図とは何か、手書き製作する	
9	演習	図面製作基礎知識②～CADソフト実習	
10	演習	図面製作基礎知識③～CADソフト実習	
11	演習	「明日への扉」対応実習①～全体概要、解説	
12	演習	「明日への扉」対応実習②～図面、スケジュール、進行表	
13	演習	「明日への扉」対応実習③～小道具製作、進行確認	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習	<p>・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる</p>		
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	実技試験 100%	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ	<p>美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身につけよう。</p>		



## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目			アクティングプロジェクト	
授業名	アクティングプロジェクト I		担当教員名	中西 邦子(リコモーション)
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	舞台演劇の本番に向けて、エチュード、スクリプトワークを通じて演出、構成を学び、チームでの舞台演劇制作が出来るようになる。			
授業の内容	スクリプトアナライズ、インプロビゼーションなどで学んだ演技の基礎から発展させ自分自身の演出や構成での舞台制作を行う。本番制作までの過程を通じて、顧客満足の考え方、チームマネジメント、セルフマネジメントを学ぶ。			
【実務経験】	大阪に拠点を持つプロダクション「リコモーション」所属俳優。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	エチュードづくり		
2	演習	エチュードづくり		
3	演習	エチュードづくり		
4	演習	エチュードづくり		
5	演習	エチュードづくり		
6	演習	エチュードづくり		
7	演習	本番		
8	演習	エチュードづくり		
9	演習	本番		
10	演習	エチュードづくり		
11	演習	エチュードづくり		
12	演習	エチュードづくり		
13	演習	演出		
14	演習	本番		
15	演習	振り返りと反省会		
準備学習 時間外学習	準備運動ストレッチなど、前回の授業の復習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技評価: 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	チャレンジする気持ちと自分を向き合う強さを大切に一緒に頑張ろう			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目			アクティングプロジェクト	
授業名	アクティングプロジェクトⅡ		担当教員名	中西 邦子(リコモーション)
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	舞台演劇の本番に向けて、エチュード、スクリプトワークを通じて演出、構成を学び、チームでの舞台演劇制作が出来るようになる。			
授業の内容	スクリプトアナライズ、インプロビゼーションなどで学んだ演技の基礎から発展させ自分自身の演出や構成での舞台制作を行う。本番制作までの過程を通じて、顧客満足の考え方、チームマネジメント、セルフマネジメントを学ぶ。			
【実務経験】	大阪に拠点を持つプロダクション「リコモーション」所属俳優。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	エチュードづくり		
2	演習	エチュードづくり		
3	演習	エチュードづくり		
4	演習	エチュードづくり		
5	演習	エチュードづくり		
6	演習	本番		
7	演習	エチュードづくり		
8	演習	エチュードづくり		
9	演習	エチュードづくり		
10	演習	エチュードづくり		
11	演習	エチュードづくり		
12	演習	エチュードづくり		
13	演習	演出		
14	演習	本番		
15	演習	振り返りと反省会		
準備学習 時間外学習	準備運動ストレッチなど、前回の授業の復習			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技評価: 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目			ヴォーカルプロジェクト	
授業名	ヴォーカルプロジェクト I		担当教員名	峯口弥生
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	<p>1：ショークワイア用にアレンジされた楽譜を使用することで音楽理論やソルフェージュ、音楽用語などの総合的な活用を理解実践する2：学生リーダー制を導入することで自身の得意分野を生かした相互協力の概念、調整能力を養いエンターテインメント業界で求められるコミュニケーションを実践する 3：それぞれの能力に応じた役回りでベストなパフォーマンスを行う 4：外部出演の依頼に応える事の出来る音楽的な基礎体力を養う 5：全ての過程を通して練習の重要性を理解し、全員が確かな成功体験を得る</p>			
授業の内容	<p>実際の現場経験や業務内容を基に、現場で必要になるリアルなノウハウを伝えていきます。現場で必要になる専門的な音楽知識、技術を具体的に教材に盛り込むために当講義用にアレンジ（編曲）されたボーカル＋コーラスの譜面を使用し、制作過程も含めて理解できるよう促します。それぞれに役回りを持たせ協力しながら練習や準備を行う中で、各学生の特徴を活かし全員が輝けるパフォーマンスを目指します。発表時に全員が達成感を得られるよう、実際の現場における本番までの過程を踏襲しながら学んでいきます。</p> <p>【実務経験】 1993年 大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、1996年 大阪音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻修了後、オペラ、コンサートなど数々の演奏活動を経て、2001年よりヴォイストレーナーとして活動。多くのヴォーカリストを輩出している。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	ショークワイア概観 履修学生のレベルチェック		
2	演習	課題曲の配布 パート分け リーダー決めと練習方針についてディスカッション		
3	演習	発声指導 パートリーダー決め パートミーティング 課題曲音取り練習		
4	演習	発声練習 学園祭楽曲練習 学園祭演出内容全体ディスカッション		
5	演習	発声練習 学園祭楽曲練習 学園祭演出内容全体ディスカッション		
6	演習	学園祭楽曲練習 学園祭詳細ミーティング		
7	演習	学園祭 本番に向けてのリハーサル		
8	演習	学園祭反省会＋今後の練習計画についてディスカッション 課題曲の配布		
9	演習	発声練習 課題曲音取り練習 アンサンブル練習		
10	演習	練習状況についてミーティング 発声練習 課題曲アンサンブル練習		
11	演習	発声練習 課題曲アンサンブル練習 ステージングの検討		
12	演習	発声練習 課題曲振り渡し→アンサンブル練習		
13	演習	発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習		
14	演習	発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習		
15	演習	発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習		
準備学習 時間外学習	自主練習の計画と実践、参加状況管理 リーダー主催ミーティングと講師への報告、ライブラリアン（楽譜音源管理）衣装管理、次回授業の準備物周知連絡ほか			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技試験 100%		
教材	教科書	新規アレンジショークワイア用楽譜と仮録カラオケ 市販ショークワイア用楽譜と専用カラオケのセット		
	参考書	[子供のためのソルフェージュ]（音楽之友社）全巻 [全訳コールユングエン]（全音楽譜出版社）1～3巻 ※いずれも抜粋使用		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目			ヴォーカルプロジェクト	
授業名	ヴォーカルプロジェクトⅡ		担当教員名	峯口弥生
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		選択	教室	
授業の到達目標	<p>1：ショークワイア用にアレンジされた楽譜を使用することで音楽理論やソルフェージュ、音楽用語などの総合的な活用を理解実践する2：学生リーダー制を導入することで自身の得意分野を生かした相互協力の概念、調整能力を養いエンターテインメント業界で求められるコミュニケーションを実践する 3：それぞれの能力に応じた役回りでベストなパフォーマンスを行う 4：外部出演の依頼に応える事の出来る音楽的な基礎体力を養う 5：全ての過程を通して練習の重要性を理解し、全員が確かな成功体験を得る</p>			
授業の内容	<p>実際の現場経験や業務内容を基に、現場で必要になるリアルなノウハウを伝えていきます。現場で必要になる専門的な音楽知識、技術を具体的に教材に盛り込むために当講義用にアレンジ（編曲）されたボーカル＋コーラスの譜面を使用し、制作過程も含めて理解できるよう促します。それぞれに役回りを持たせ協力しながら練習や準備を行う中で、各学生の特徴を活かし全員が輝けるパフォーマンスを目指します。発表時に全員が達成感を得られるよう、実際の現場における本番までの過程を踏襲しながら学んでいきます。</p> <p>【実務経験】 1993年 大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、1996年 大阪音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻修了後、オペラ、コンサートなど数々の演奏活動を経て、2001年よりヴォイストレーナーとして活動。多くのヴォーカリストを輩出している。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	ショークワイア概観 履修学生のレベルチェック		
2	演習	課題曲の配布 パート分け リーダー決めと練習方針についてディスカッション		
3	演習	発声指導 パートリーダー決め パートミーティング 課題曲音取り練習		
4	演習	発声練習 学園祭楽曲練習 学園祭演出内容全体ディスカッション		
5	演習	発声練習 学園祭楽曲練習 学園祭演出内容全体ディスカッション		
6	演習	学園祭楽曲練習 学園祭詳細ミーティング		
7	演習	学園祭 本番に向けてのリハーサル		
8	演習	学園祭反省会＋今後の練習計画についてディスカッション 課題曲の配布		
9	演習	発声練習 課題曲音取り練習 アンサンブル練習		
10	演習	練習状況についてミーティング 発声練習 課題曲アンサンブル練習		
11	演習	発声練習 課題曲アンサンブル練習 ステージングの検討		
12	演習	発声練習 課題曲振り渡し→アンサンブル練習		
13	演習	発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習		
14	演習	発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習		
15	演習	発声練習 課題曲ステージン付きアンサンブル練習		
準備学習 時間外学習	自主練習の計画と実践、参加状況管理 リーダー主催ミーティングと講師への報告、ライブライアン（楽譜音源管理）衣装管理、次回授業の準備物周知連絡ほか			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	実技試験 100%		
教材	教科書	新規アレンジショークワイア用楽譜と仮録カラオケ 市販ショークワイア用楽譜と専用カラオケのセット		
	参考書	[子供のためのソルフェージュ]（音楽之友社）全巻 [全訳コールユングエン]（全音楽譜出版社）1～3巻 ※いずれも抜粋使用		
学生への メッセージ				

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		キャリア教育	
科目名	キャリア教育 I	担当教員名	照井 裕章
時間数	30	必修・選択	配当年度
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	人間教育として社会に出ていく人間的基盤の構築と、専門学校生活に伴う基本的な心構えやグループワークに伴う他者と自我の認識の構築。社会に出ていくための基本的なマナーの構築。TPOや常識的な感覚を養う。また報・連・相の徹底や、クラスのノームの構築と健全なクラス運営を目指す。		
授業の内容	グループ構成の認識、メールのマナーや社会常識のマナー講義、マナー講座、社会生活を営む上での心構えなど社会人基礎力向上のための講座。		
【実務経験】	ユニバーサルスタジオジャパンでエンターティナーとして実務。バックダンサー・ダンスインストラクターを経験。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	ITリテラシーを理解し、IT環境に対応できるようになる。	
2	演習	守秘義務を理解し、守れるようになる。	
3	演習	デビューバンク等ビューツールの作成	
4	演習	舞台用語①	
5	演習	目標シート制作	
6	演習	個人サンプル制作について	
7	演習	スケジュール管理について	
8	演習	新人発掘プレゼンテーションガイダンス①	
9	演習	話し方・聞き方講座	
10	演習	PDCAサイクルについて	
11	演習	個人情報の取り扱いについて	
12	演習	デビューマップ制作	
13	演習	コンセンサスを取るためのワークショップ	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	課題 (100%)	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ			

## 総合芸術科昼間部 I 部 シラバス

授業科目		キャリア教育	
科目名	キャリア教育 II	担当教員名	照井 裕章
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	人間教育として社会出ていく人間的基盤の構築と、専門学校生活に伴う基本的な心構えやグループワークに伴う他者と自我の認識の構築。社会に出ていくための基本的なマナーの構築。TPOや常識的な感覚を養う。また報・連・相の徹底や、クラスのノームの構築と健全なクラス運営を目指す。		
授業の内容	グループ構成の認識、メールのマナーや社会常識のマナー講義、マナー講座、社会生活を営む上での心構えなど社会人基礎力向上のための講座。		
【実務経験】	ユニバーサルスタジオジャパンでエンターティナーとして実務。バックダンサー・ダンスインストラクターを経験。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	新人発掘プレゼンテーションガイダンス②	
2	演習	新人発掘プレゼンテーションガイダンス③	
3	演習	舞台用語②	
4	演習	舞台用語③	
5	演習	顧客の考え方	
6	演習	報告・連絡・相談とおひたし	
7	演習	プレゼンツール作成について	
8	演習	社会人基礎力①主体性	
9	演習	社会人基礎力②働きかけ力	
10	演習	社会人基礎力③実行力	
11	演習	社会人基礎力④課題発見力	
12	演習	社会人基礎力⑤計画力	
13	演習	社会人基礎力⑥創造力	
14		(ワークショップ)	
15		(ワークショップ)	
準備学習 時間外学習			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%)	課題 (100%)	
教材	教科書		
	参考書		
学生への メッセージ			